

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	スポーツ特論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	303教室
担 当 教 員	生田晶子	実務経験と その関連資格	健康運動指導士, NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場で必要なコーチングなどの知識や技術を学び理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Reference Book(日本スポーツ協会)、トレーニング指導者テキスト(JATI)実技編						
《授業外における学習方法》						
インターネットや新聞紙面等において、授業に関連する記事や情報を意識的に見るようにする。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツコーチについて知ることが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【コーチングとは】① コーチングとコーチの定義／ぐっとプレーヤーとグッドコーチ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	プレイヤードセンタードについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【コーチングとは】② プレイヤードセンタード			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチに求められる役割とスキルについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【コーチに求められる役割】 【コーチに求められる知識とスキル】			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションスキルについて理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【対他者力】① コミュニケーションスキル			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ファシリテーションスキルについて、理解することが出来るようになる。		Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【対他者力】② ファシリテーションスキル			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	対自己力について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【対自己力】		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】① 社会の中のスポーツの価値		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	スポーツの意義と価値について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの意義と価値】② スポーツの文化的特徴		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ権と自治ガバナンス・コンプライアンスについて、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツの価値を守るスポーツ権】 【スポーツの自治ガバナンスとコンプライアンス】		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	暴力・ハラスメント、インテグリティについて、更に理解を深めることが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【暴力・ハラスメントの根絶】 【スポーツのインテグリティ】		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	事故や法的責任、倫理について、理解することが出来るようになる。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	【スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任】 【スポーツ仲裁】【スポーツ倫理】【時代をリードするコーチング】		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コーチングについてまとめ、より理解を深める。	Reference Book (日本スポーツ協会)	予めテキストに目を通して おき、不明なワードに 対してはインターネット 等にて確認しておく
		各コマにおける授業予定	コーチングを理解する③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	学んだ事を総復習し、コーチングとは何かを理解する。	Reference Book (日本スポーツ協会)	今までの授業内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復演習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (6) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期 火1、水3・4	教室名	303
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験とその関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
研究に必要な基礎知識や研究方法などを学び、指導教員とディスカッションを交えて行う。論文の意義やエビデンスについてを理解した上で研究の進め方、組立て、研究デザイン、データの収集、解析法を学んでいく。							
《成績評価の方法と基準》							
出席及び、課題の提出物、ディスカッションへの参加度を総合的に評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
配布資料							
《授業外における学習方法》							
授業時間外での情報収集などが必要となるので、図書館を利用して情報を収集出来るようにする。							
《履修に当たっての留意点》							
データの解析には、統計処理が必要となり、また、発表にはスライドの作成技術が必要となる。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第31回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。		資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。				
第32回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。		資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。				
第33回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文を読んでもみる事ができるようになる。		資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	論文を読み、内容を説明することができる。				
第34回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究の構成について理解することができるようになる。		資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	研究の構造				
第35回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究の構成について理解することができるようになる。		資料の配布	特記事項無し	
		各コマにおける授業予定	研究の構造				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第36回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定		
第37回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマについて考えることが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの設定		
第38回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自身の興味のある研究テーマについて情報を集める事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの情報収集		
第39回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自身の興味のある研究テーマについて情報を集める事ができるようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究テーマの情報収集		
第40回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画の立て方について理解することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究プロトコールを立てる		
第41回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画の立て方について理解することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究プロトコールを立てる		
第42回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究の進め方について理解することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究の考え方、組立て方、研究デザイン		
第43回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究の進め方について理解することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究の考え方、組立て方、研究デザイン		
第44回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実験ノートの書き方について理解することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	実験ノートの書き方		
第45回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマを決定し研究を開始することが出来るようになる。	資料の配布	特記事項無し
		各コマにおける授業予定	研究の開始		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 水・1限	教室名	303教室
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》							
柔道整復学の上肢の骨折脱臼について学ぶ							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験100％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編改訂第7版、柔道整復学・実技編改訂第2版、解剖学改訂第2版、配布プリント							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿って本読み、配布プリントの復習、まとめ							
《履修に当たっての留意点》							
基礎となる解剖学を理解すること、本読みを行い教科書の記載内容を理解すること							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	腱板断裂について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節部の軟部組織損傷 腱板断裂				
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	上腕二頭筋長頭腱損傷について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節部の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷				
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	ベネット損傷について理解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(スポーツ損傷) ベネット損傷				
第 4 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	SLAP損傷、インピンジメント症候群、リトルリーガー肩について理 解することができるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節部の軟部組織損傷(スポーツ損傷) SLAP損傷、インピンジメント損傷、リトルリーガー肩				
第 5 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	動揺性肩関節、末梢神経障害、五十肩について理解することが できるようになる。		柔道整復学・理 論編改訂第7版、 柔道整復学・実 技編改訂第2版、 解剖学改訂第2 版	授業範囲本読み予習復 習	
		各コマに おける 授業予定	肩関節部の軟部組織損傷 不安定症、末梢神経障害、その他の疾患				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	上腕部、肘関節部の軟部組織損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	上腕部、肘関節部の軟部組織損傷 神経損傷、靱帯損傷、野球肘、テニス肘、その他の疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	前腕部の軟部組織損傷 前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群、末梢神経障害		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	前腕部の軟部組織損傷(軟部組織損傷)について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	前腕部の軟部組織損傷 末梢神経障害		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節の軟部組織損傷について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	手関節部の軟部組織損傷 TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害、キーンバック病、 マーデルング変形		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	腱、靱帯の損傷、ロッキングフィンガーについて理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	手部、指部の軟部組織損傷 腱、靱帯の損傷、ロッキングフィンガー		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	その他の手指部の変性疾患および変形について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	手部、指部の軟部組織損傷 その他の手指部の変性疾患および変形		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	指骨の骨折(基節骨、中節骨の骨折)について理解する	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	指骨の骨折(基節骨、中節骨の骨折)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	第一指以外の中手指節関節脱臼、近位指節関節脱臼について理解することができる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	指骨の骨折(末節骨の骨折、マレットフィンガー)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	近位指節関節脱臼、遠位指節間関節脱臼について理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	手関節部の脱臼 遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨脱臼		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習、苦手なポイント等理解することができるようになる。	柔道整復学・理論編改訂第7版、 柔道整復学・実技編改訂第2版、 解剖学改訂第2版	授業範囲本読み予習復習
		各コマにおける授業予定	中手指節関節、指節間関節脱臼		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		柔道整復学・各論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 木1.4	教室名	303
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》 四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で損傷が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷がみられる。それらの損傷を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになることを目標とする。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につける。							
《成績評価の方法と基準》 定期試験、小テスト、レポート等で評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂							
《授業外における学習方法》 ・予習について、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に臨むようにする。 ・復習について、講義でやった内容のノートを確認してから次の講義に臨むようにする。							
《履修に当たっての留意点》 欠課により、休んだ回の内容が完全に無い形で進行するため、欠課がないように気をつける。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖について。				
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	半月板損傷、靱帯損傷について。				
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	靱帯損傷について。				
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	発育期の膝関節障害、腸脛靱帯炎について。				
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	鷲足炎、膝蓋大腿関節障害について。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	膝関節周囲の関節包、滑液包の異常、神経の障害、注意すべき疾患について。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂について。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿三頭筋の肉ばなれについて。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿部のスポーツ障害について。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	注意すべき疾患について。		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別について。		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別、注意すべき疾患について。		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	中足部から後足部の有痛性疾患について。		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患、注意すべき疾患について。		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	復習、定期試験について。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	練習問題など。		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習演習
科 目 名		臨床実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	後期 月曜日	教室名	外部実習先
担 当 教 員		奥出 一貴	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許 柔道整復師専科教員免許 日本赤十字救急法指導員、NSCA-CPT			
《授業科目における学習内容》							
臨床実習の目的と意義。 オリエンテーションにて実習の心構え、容姿、注意点等の説明。 外部施設での見学実習							
《成績評価の方法と基準》							
レポート提出・態度と容姿、参加度を総合的に判断する。(実習指導調整者、科目担当者)							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン							
《授業外における学習方法》							
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識。患者との適切な対応、施術者になるための責任と自覚。 医療人としての倫理やマナー、容姿。多種職連携の重要性。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習現場にて、美作市スポーツ医療看護専門学校の学生としてふさわしい容姿や受け答えのできる人材。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習にて必要なルール、現場実習での態度、学ぶ姿勢を理解することができる。			公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習資料の説明)				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習にて必要な書類の作成を通じて、就職活動にもつながる書類の記入方法、ルールを理解することができる。			公益社団法人全国柔道整復学校協会 臨床実習ガイドライン	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(臨床実習必要書類の作成)				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。				
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。				
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。				
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において施術録や保険証などの個人情報の取扱いについて理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において施術録や保険証などの個人情報の取扱いについて理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において施術録や保険証などの個人情報の取扱いについて理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において施術録や保険証などの個人情報の取扱いについて理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	美作名倉堂接骨院		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	白うさぎ整骨院		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	白うさぎ整骨院		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	現場実習において受付、問診、施術を通して患者とのコミュニケーションの方法を理解することができるようになる。		
		各コマにおける授業予定	白うさぎ整骨院		

2025 年度 美作市スポーツ医療看護専門学校授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		臨床柔道整復学(各論Ⅰ)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期 金1・2	教室名	303
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師免許・柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
解剖学の運動器を復習しつつ、上肢の骨折を振り返り、理解を深める。							
《成績評価の方法と基準》							
素点:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
解剖学 改訂第2版 柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版							
《授業外における学習方法》							
教科書に沿い、講義・国家試験に準じた復習を行う。 講義で使用了口頭試問問題・四択問題を解く。							
《履修に当たっての留意点》							
資料や図形を用いて、立体的に理解すること。							
授業の 方法		内 容			使用教材		授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。		解剖学 改訂第2版		授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習		柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版		
第 2 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。		解剖学 改訂第2版		授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習		柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版		
第 3 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。		解剖学 改訂第2版		授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習		柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版		
第 4 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。		解剖学 改訂第2版		授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習		柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版		
第 5 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。		解剖学 改訂第2版		授業範囲の予習・復習
		各コマに おける 授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習		柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨・筋を理解する。 各関節の運動を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上肢の骨・筋の復習 各関節の運動の復習	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 肩甲骨骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位部の骨折 上腕骨骨幹部骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	上腕骨遠位部の骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨近位部の骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨骨幹部骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	前腕骨遠位端部骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	手根骨部の骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	中手骨部の骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨折を理解する。	解剖学 改訂第2版	授業範囲の予習・復習
		各コマにおける授業予定	指骨の骨折	柔道整復学・理論編 改訂第7版 柔道整復学・実技編 改訂第2版	

2025 年度 美作市スポーツ医療看護専門学校授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅱ 下肢		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期 集中	教室名	303、実技室1
担 当 教 員		松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復師専科教員			
《授業科目における学習内容》							
下肢における骨折、脱臼について、各論で学んだことを応用して、評価、応急処置、整復法、固定法、後療法が実践できるようなる。 このためにも、機能解剖学、損傷の発生机序、症状などの理論を繰り返し学習し、理解を深める。							
《成績評価の方法と基準》							
定期試験及び実技試験、小テスト、レポート等にて評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第3版」メジカルビュー社							
《授業外における学習方法》							
・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、ノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。 ・実技については、講義時間外にも繰り返し練習して下さい。							
《履修に当たっての留意点》							
欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。							
授業の 方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法を理解、実践できる。			教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 股関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 2 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法を理解、実践できる。			教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 股関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 3 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法を理解、実践できる。			教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 股関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 4 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。			教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 股関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				
第 5 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。			教科書、評価用 備品、固定用備 品など	予習 股関節周囲の骨 のランドマーク、筋肉、 神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマに おける 授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 股関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 股関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	徒手整復法、搬送時の応急処置法		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	徒手整復法、搬送時の応急処置法		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、股関節脱臼の評価法、応急処置法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	徒手整復法、搬送時の応急処置法		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 下腿部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 下腿部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	評価法(医療面接、視診、触診など)		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 下腿部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	応急処置法、固定法		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨幹部骨折の評価法、応急処置法、固定法を理解、実践できる。	教科書、評価用備品、固定用備品など	予習 下腿部周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し 実技の自主練習
		各コマにおける授業予定	応急処置法、固定法		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	臨床柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期 集中	教室名	303、実習室
担 当 教 員	松澤 伸也	実務経験と その関連資格	柔道整復師、柔道整復専科教員資格			
《授業科目における学習内容》						
四肢の損傷はスポーツ傷害により発生する事が多く、膝関節や足関節はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で怪我が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷が見られる。その疾患を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになる。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につけます。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験、実技試験、小テスト、レポート等にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 解剖学改訂第2版 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、授業でやった内容のノートを確認し、次回の授業に望むようにしてください。						
《履修に当たっての留意点》						
欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	膝関節の機能解剖について。			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	半月板損傷、靱帯損傷について。			
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	靱帯損傷について。			
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	発育期の膝関節障害、腸脛靱帯炎について。			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。		柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	鵞足炎、膝蓋大腿関節障害について。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	膝関節部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 膝関節周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	膝関節周囲の関節包、滑液包の異常、神経の障害、注意すべき疾患について。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂について。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿三頭筋の肉ばなれについて。		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	下腿部のスポーツ障害について。		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	下腿部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 下腿周囲の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	注意すべき疾患について。		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別について。		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	足関節捻挫、足関節捻挫の類症鑑別、注意すべき疾患について。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	中足部から後足部の有痛性疾患について。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	足関節・足部の軟部組織損傷について理解できる。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	予習 足関節、足部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	前足部の有痛性疾患、注意すべき疾患について。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	復習、定期試験について。	柔道整復学 理論編 柔道整復学 実技編	復習
		各コマにおける授業予定	練習問題など。		